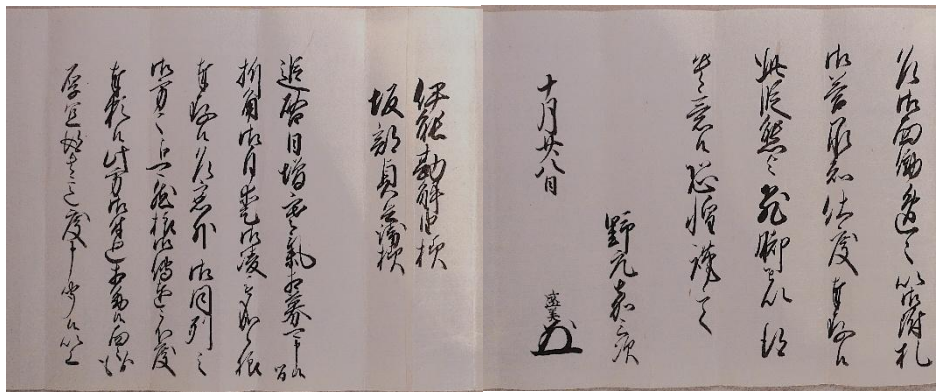
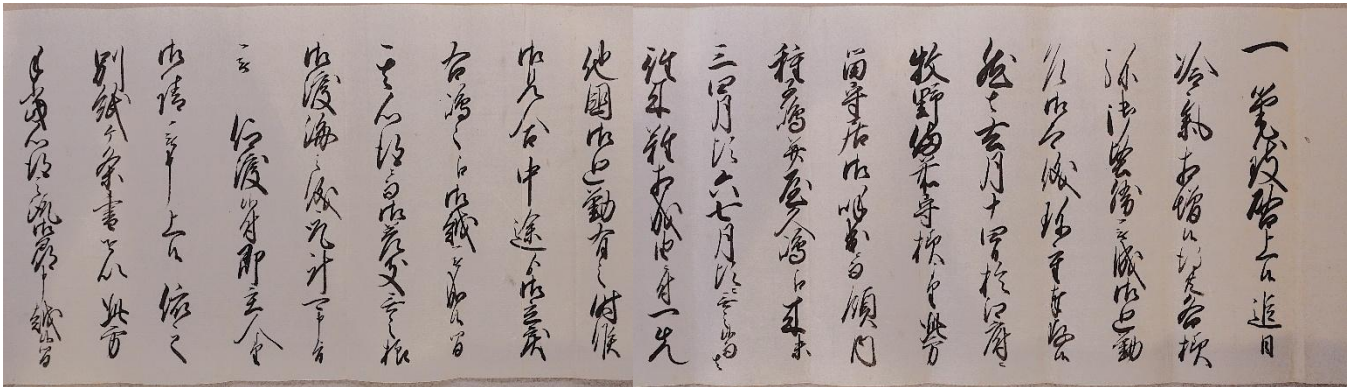


展示品解説

○「野元嘉三次書状」書状類 359

文化7年10月28日付け、伊能勘解由・坂部貞兵衛宛 法量 16.8×113.5cm

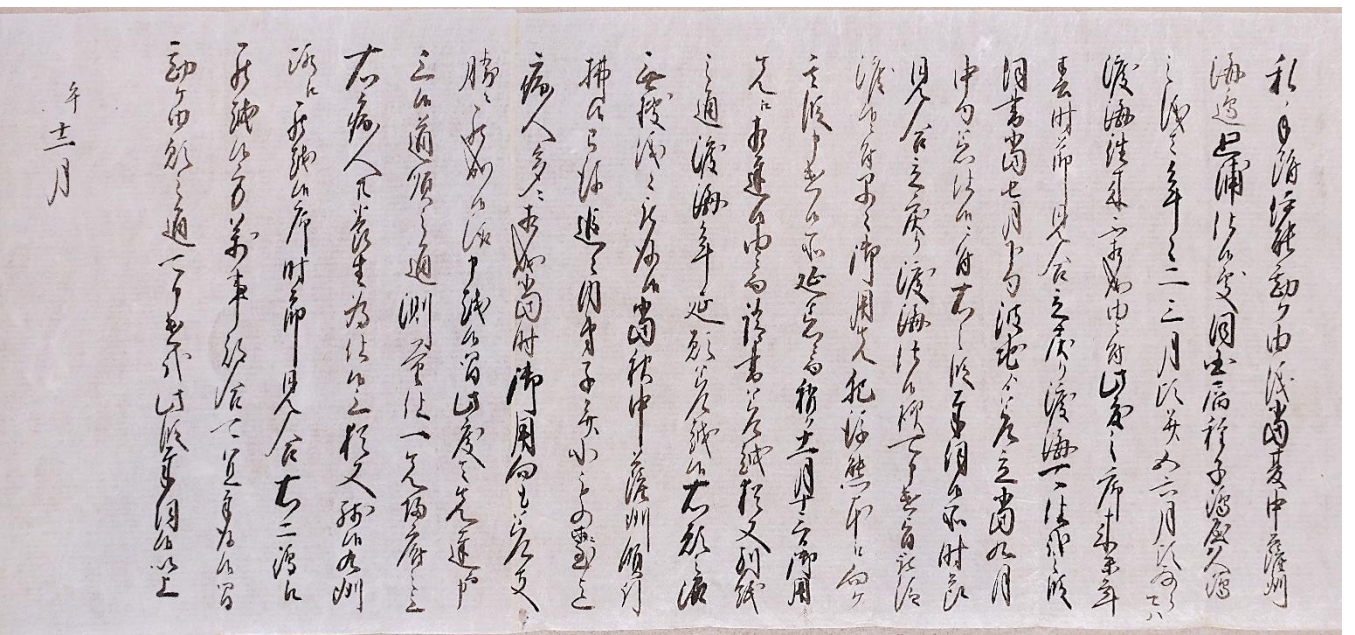


伊能忠敬記念館所蔵
無断流用禁止

文化7年7月8日第七次測量隊は鹿児島城下から山川湊に着いた。書状類262の高橋景保書状によると、薩摩藩側との協議を踏まえて、種子島、屋久島は2～3月に渡り、5～6月に帰るのが渡海によい季節なので、一旦肥後などを回って、来年になってから薩摩に戻り種子島、屋久島測量を行なうという計画変更を忠敬が要請してきた。それを若年寄堀田正敦に伺ったところ了解が得られた。

その計画変更を踏まえたものが展示中の書状類359「野元嘉三次書状」である。野元嘉三次は測量隊との折衝役の薩摩藩士である。伊能忠敬と坂部貞兵衛に宛てて、老中牧野備前守から薩摩藩留守居役に対し、渡海に都合が良い時期まで測量隊は他国を測量し、それから立戻って島々へ渡海すると指示された。その準備のために別紙簡条書きの質問状に附札で回答を願うというものである。

○「種子島・屋久島渡海延期等伺」文書・記録類286 法量16.5×47.7cm

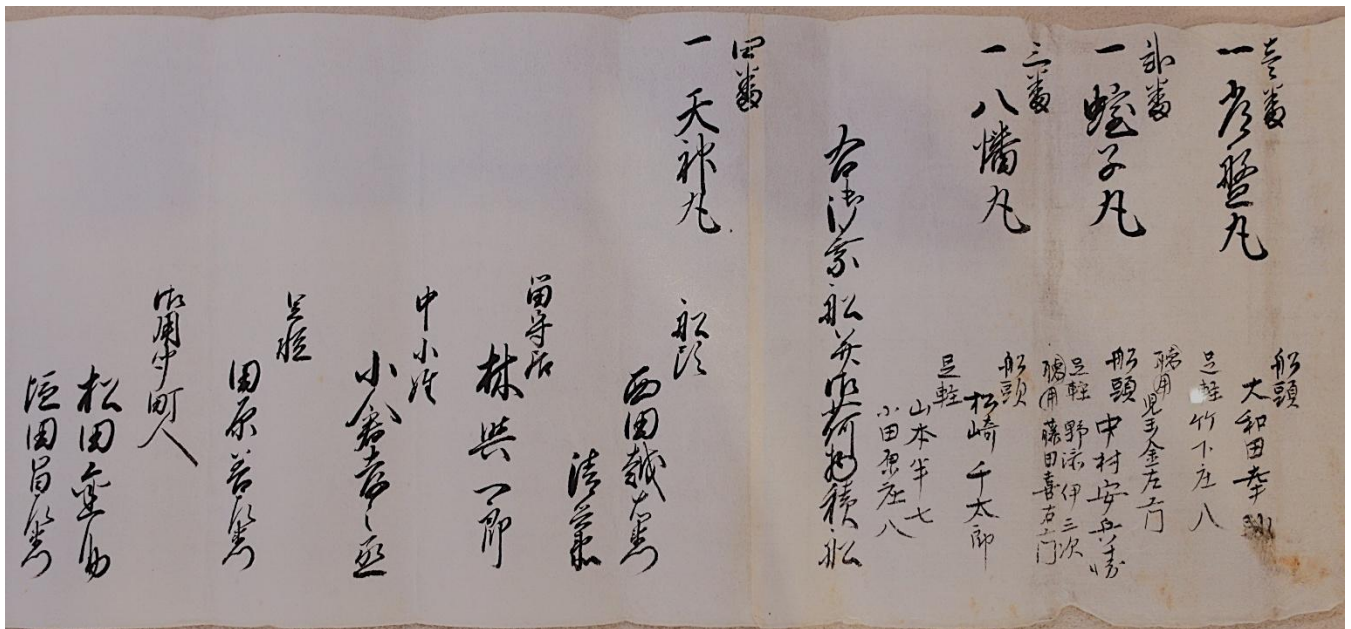


伊能忠敬記念館所蔵 無断流用禁止

一旦肥後などを測量してから屋久島・種子島渡海をするという計画変更を認められた忠敬が、さらなる計画変更を要請した。文化7年11月の文書・記録類282「薩州領島々渡海延期願」で、「病人続出測量差支えにつき来年一先ず帰府の願」を出したのである。これを受けて12月10日に高橋景保が、この文書・記録類286「種子島・屋久島渡海延期等伺」を幕閣に提出した。「内弟子并小もの等に至る迄病人多」になったので、現在では測量隊の「御用向きも差支え」がちになっている。測量隊を一旦帰府させたいうで、時節を見合せて、右二嶋へ罷り越した方が万事都合が良いので、忠敬の希望通りにしては如何かという伺いである。12月11日付の高橋景保の書状（書状類252）で渡海延期願が堀田正敦に承認された事を伝えられ、薩摩役人へその旨連絡するようにとの指示があった。

ところが、江戸からの書状が測量中の忠敬のもとに届くには時間がかかる。文化8年1月18日の高橋景保宛の忠敬の書状（学士院「伊能忠敬御用書簡集」25）によると、前年12月1日発の高橋景保の書状は熊本を経由して小倉城下で受領したとある。一方、二島渡海が延期になったことを知らない野元嘉三次は、焦りの手紙を忠敬に送った。それが1月13日付けの書状類360で、二島御渡海日程がわからないのでは準備が出来ないので、展示中の「野元嘉三次書状」で依頼した箇条書きに回答を再度願い、当年御渡海の有無如何とさらに問うた。

○「屋久嶋種子島渡船乗船人名書上」 文書・記録類 302 法量 16.4×168.1cm



伊能忠敬記念館所蔵 無段流用禁止

文化8年5月8日、第七次測量から江戸に帰着し、9月23日の『江戸日記』には「野元嘉三次来る」とあり、二島渡海の打ち合わせが始まったようである。但し、この後に第八次測量で測量隊を担当した薩摩藩士は平田次郎八と松元十郎兵衛に変更となった。11月15日に第七次測量の地図を提出し、11月25日に第八次測量が始まった。

文化9年3月10日に鹿児島城下から山川湊へ8艘の船団が出帆した。その薩摩藩側の乗船名簿がこの書上である。そのため、四番の天神丸については船頭や、薩摩藩の対外交渉役の留守居林與一郎らの藩士、足軽、人足、御用商人の名が記載されている。五番の伊勢丸以下も同様である。一番の常盤丸、二番の蛭子丸、三番の八幡丸については「右御乗船并御荷物積船」と測量隊用であることが記され、別筆で船頭、足軽、用聴（御用聞）の名前が追記されている。この乗船人名書上に測量隊員の名前は記載されていないが、文化9年3月10日の『測量日記』には完全な乗船名簿が記載されている。一番常盤丸に忠敬と内弟子三名や従者が、二番の蛭子丸には坂部貞兵衛ら天文方下役とその従者、三番の八幡丸には棹取り二名と荷物が乗船した。

○「自肥後国球磨郡七地村至日向国諸県郡南方村図」

地図・絵図類 123 縮尺 36,000 分の 1、法量 81.5×147.4cm

本図は熊本県の人吉城下近くの七地村から宮崎県の佐土原城下の手前の児湯郡の南方村までの米良街道を描いた大図である。第 8 次（九州第 2 次）測量で、屋久島、種子島測量を終えた後、坂部支隊は文化 9（1812）年 6 月 6 日に人吉城下を出発し、米良街道と鹿児島街道の分岐点から米良街道を東に向かった。『測量日記』を見ると、6 月 8 日「一里山越という大難所」、「幅八間丸木一本橋」、9 日「竹橋にて深瀬という甚だ危き橋なり」、「米良谷橋幅四十二間、割木橋幅三尺ばかり、中程は動揺」、「天包越という大難所」、10 日「丸木橋幅二十七間。越野尾橋という。甚だ危し」とあるように、山越え、谷越えの難所が続いた。11 日に杉本越峠の国界を越え「日向国児湯郡佐土原領尾泊村」に入り、翌日には大図東端の南方村、13 日に佐土原城下に到着した。大図の東端の南方村の手前にも「杉本峠 界^{肥後}日向国^{球磨}郡^{米良}領^{小河谷}尾泊村」と朱書されており、測量日記と一致している。このようなことから文化庁による資料名の「諸県郡」は「児湯郡」の誤りである。

この大図が最終上呈版と異なる点をまとめてみると下記のようになる。

- ・コンパスローズには東西南北の文字だけが書かれ、彩色されていない。
- ・「小河谷制札」「主膳陣屋」「字鈴原」「鈴原谷川」など小字名や谷川名など多くの下図のような地理情報が、極細字で墨書されている。
- ・墨書された地理情報の一部を選んで大きく朱書している。また朱点がうたれた山名もある。
- ・国界、郡界、村界が「界^{○○}△△村」と記されている。
- ・この大図は最終上呈版とは地域割りが異なり、アメリカ大図の第 200 号、第 197 号、第 185 号にまたがる範囲で、第八次測量の米良街道だけが描かれている。

以下、この大図と、同様な特色を持つ大図を並べてみたので比較されたい。いずれも第八次測量の成果図である。

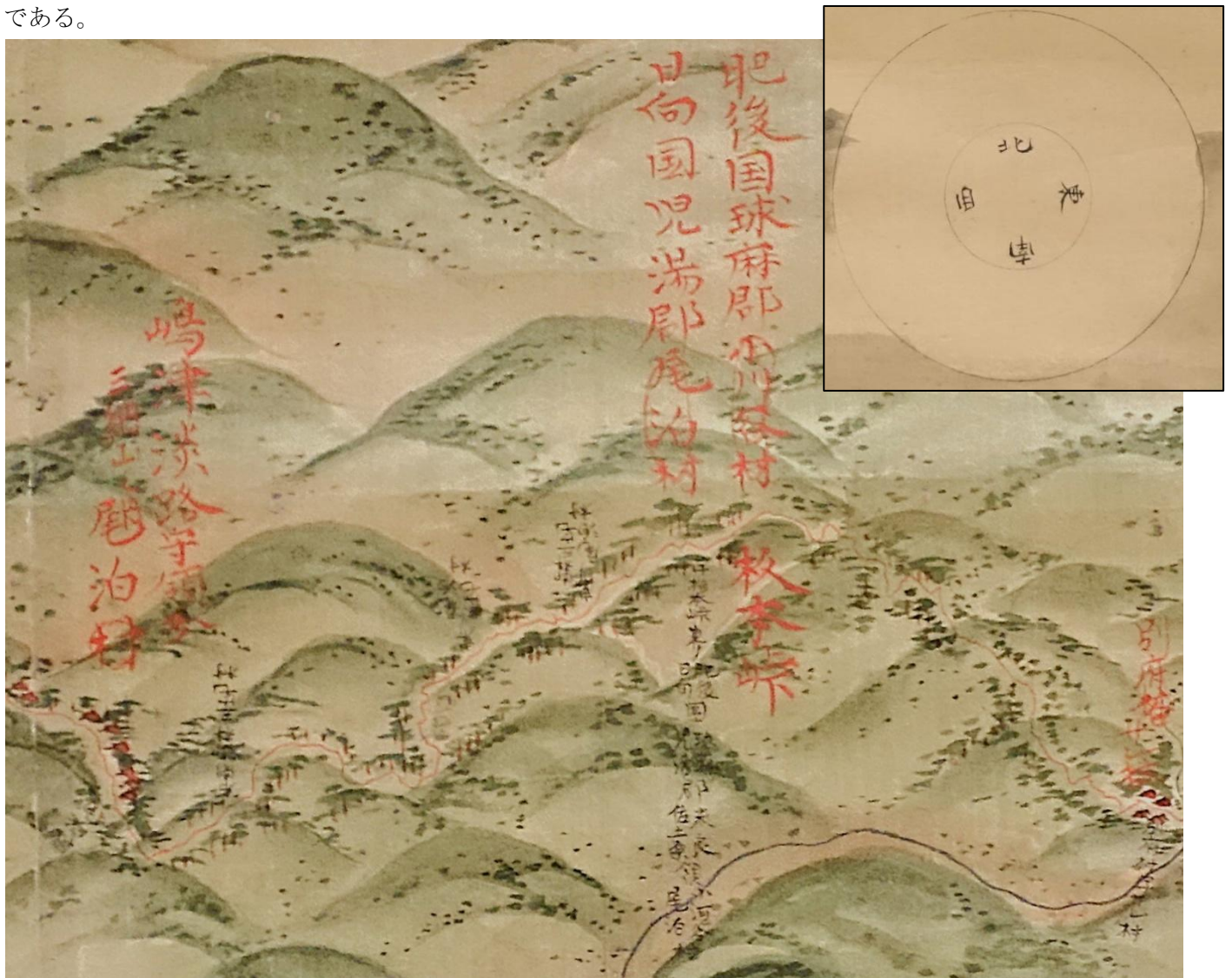
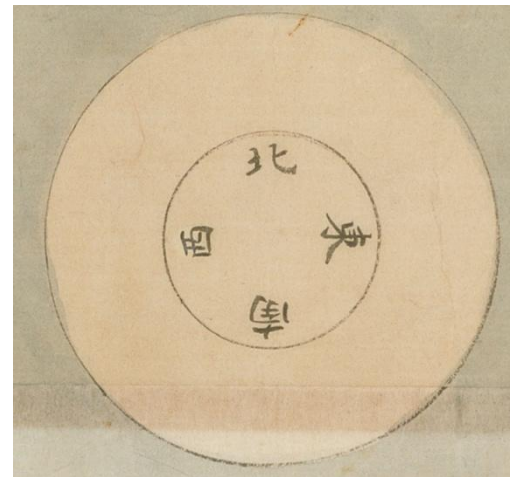
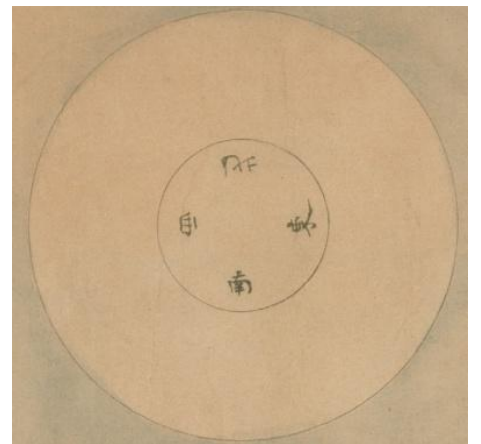


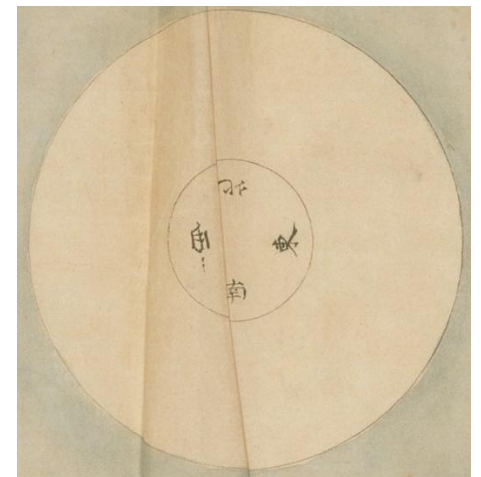
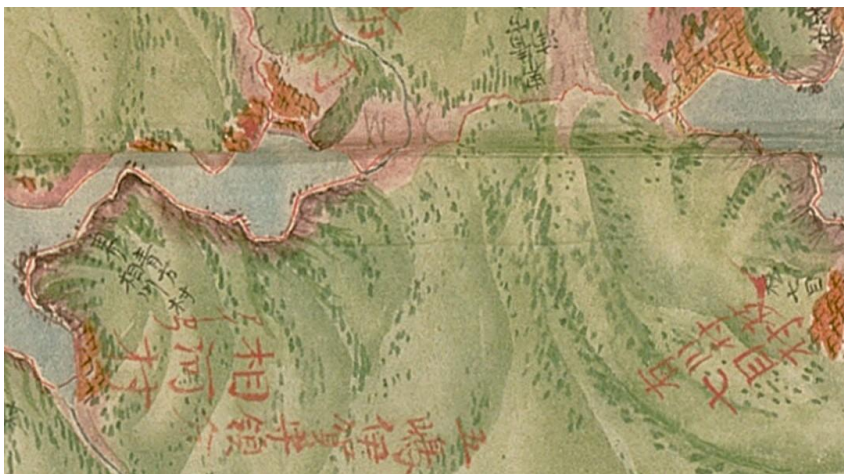
図 1 地図・絵図類 123 「自肥後国球磨郡七地村至日向国諸県郡南方村図」から肥後・日向の国界付近とコンパスローズ



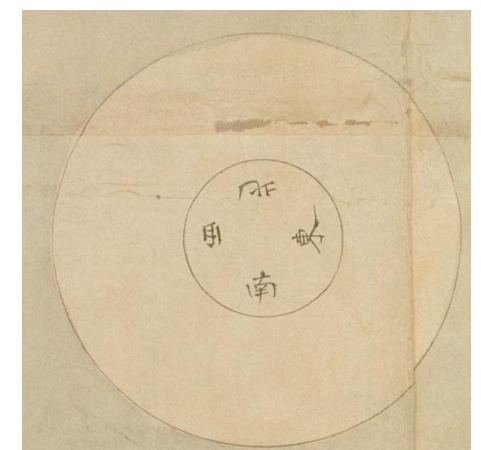
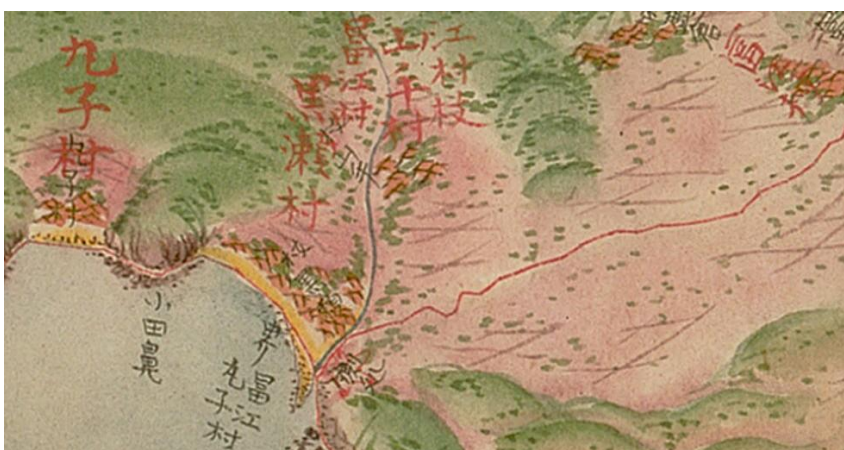
「肥前国松浦郡平戸領」部分とコンパスローズ 京都大学附属図書館蔵



「壱岐国之図」部分とコンパスローズ 京都大学附属図書館蔵



「肥前五島之上」部分とコンパスローズ 京都大学附属図書館蔵



「肥前五島之二」部分とコンパスローズ 京都大学附属図書館蔵

伊能忠敬記念館 第127回收藏品展 展示資料一覽

令和8年3月24日(火)～令和8年5月24日(日)

No.	資料名	員数	指定	資料番号	分量(cm)
1	自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十五 〈自東岩瀬／至哥〉	1鋪	国宝	地図・絵図類 31	87.8×169.8
2	自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十六 〈自哥／至今町〉	1鋪	国宝	地図・絵図類 32	86.4×179.8
3	自江戸歴尾州赴北国到奥州沿海図 第十七 〈自今町／至柏崎／又越後街道／至関山〉	1鋪	国宝	地図・絵図類 33	177.8×86.3
4	〔自肥後国球磨郡七地村至日向国宮崎郡南方村図〕	1枚	国宝	地図・絵図類 123	81.5×147.4
5	忠敬先生日記二十八	1冊	国宝	文書・記録類 123	20.5×13.3
6	忠敬先生日記五十	1鋪	国宝	文書・記録類 145	18.8×12.2
7	〔種子島・屋久島渡海延期等伺〕	1枚	国宝	文書・記録類 286	16.5×47.7
8	〔屋久嶋種子島渡船乗船人名書上〕	1枚	国宝	文書・記録類 302	16.4×168.1
9	〔贈物目録〕	1枚	国宝	書状類 30	16.2×175.6
10	〔伊能忠敬書状〕	1枚	国宝	書状類 131	15.6×80.3
11	〔野元嘉三次書状〕	1枚	国宝	書状類 359	16.8×113.5
12	〔伊能忠敬贈位証書〕写	1枚	未指定	伊能淳家文書 N-35	
13	〔伊能忠敬贈位に付祝辞書上〕	1枚	未指定	伊能淳家文書 N-38	
14	謝辞(忠敬先生百年祭謝辞)	1枚	未指定	伊能淳家文書 5	
15	伊能忠敬先生銅像建設念絵葉書	6枚	未指定	伊能洋家文書 175-2	